

SHIN CLUB 252

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「猿楽町ハウス」 撮影：阿野太一

コロナと現場

おしゃれなブティックやレストランが点在し、裏通りに入ると高級住宅街が広がる、住みたい街ランキングで常に上位の「代官山」。「猿楽町」は、もともとこの地域にあった大小2基の円墳のうち、大きい円墳「猿楽塚」からその名が由来します。塚は現在「代官山ヒルサイドテラス」の敷地内に残っています。

その「猿楽町」で、2019年冬からテナントビルの施工を承ることになりました。設計は、北山恒氏の architecture WORKSHOP(以下AWS)です。年が明け、2020年、ちょうど中間検査が終わり、現場が2階スラブの躯体コンクリート打設が終わって間もなくのことでした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年4月7日に1回目の緊急事態宣言が発令されました。設計のAWSの工藤徹氏に当時を振り返っていただきました。

「都からの要請があったようで、翌日には事業活動の自粛が始まり、この現場でも当面の間は定例会議と土曜日の現場作業を中止するといった知らせを受けました。現場の皆さんとはすぐに定例会議をどうしようかという話になったのですが、まだサッシも入っていない躯体だけの現場は外のようなものだから、『そこで注意して定例会議をしてはどうか』ということになりました。

こうしてコロナ禍で自粛の雰囲気が高まっていく中、現場で定例会議を始めたわけですが、緊急事態宣言下でもすぐに話がまとまったのは、定例会議でわざわざ集まって納まりを一緒に協議するという手順を踏んでおかないとうまく建築がつかれないのではない

か、という感覚を共有していたからではないかと思います。結局は竣工間際まで現場で定例会議を続けました」とのことです。

どこの職場でもオンライン会議が推奨されるようになったコロナ禍での働き方ですが、

「建築をつくる行為は、やはり直接現場をみて、広げた図面に納まりを描いて議論をしないと多くのことに気が付けないように思います。頭で理解することと、身体でわかることは別のことで、現場で逡巡しながら全員が同じ空間で身体に納まりを定着させるような行為を行うかどうかで、人の手がつくる建築の仕上がりは変わってくるように思います」と工藤氏。

「今後、先進技術の優勢性や時間と空間を効率的に管理運営する思想は、社会的により強化され加速していくと思うのですが、現場の思想とでも言ったらよいのか、身体を現場や定例の空間に持っていくという原始的で一見過剰とも思える行為は、共同してものづくりを行う上で省いてはいけないうことではないかと改めて感じました」

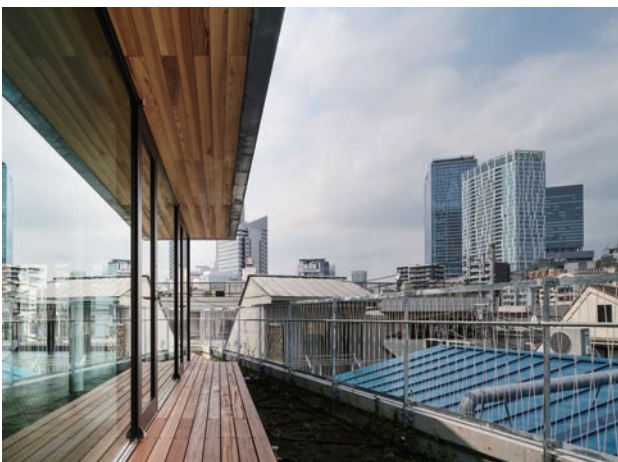
現場の一体感もあって、土曜日の作業中止日数分をそのまま延期した以外は、予定通りの工期で残工事なく竣工を迎えました。

「建て主の誠意と寛容さに支えられて、最後まで丁寧な仕事を続けることができた現場です」と工藤氏は、何時にも増して現場への強い思いを感じられたようでした。

猿楽町ハウス



北西側全景（夕景）。周辺に開かれた軒下の通路。歩行者が通り抜けできる



3階テラス。渋谷高層ビル群が見える



南西側外観。木のルーバーのサインボード

建物の余剰が周辺環境も豊かに

計画地は、代官山から渋谷に抜ける通りを裏手に入り、落ち着いた住宅地でありながら、小さなレストランなどの商業施設が混在するエリアにある。建物は3階建てで、1階はレストランや店舗などの地域に開かれた施設、2階はメンバーシップが使うオフィスなどの用途、3階はプライベートな住宅を想定している。1階はパブリック、2階はコモン、3階はプライベートである。

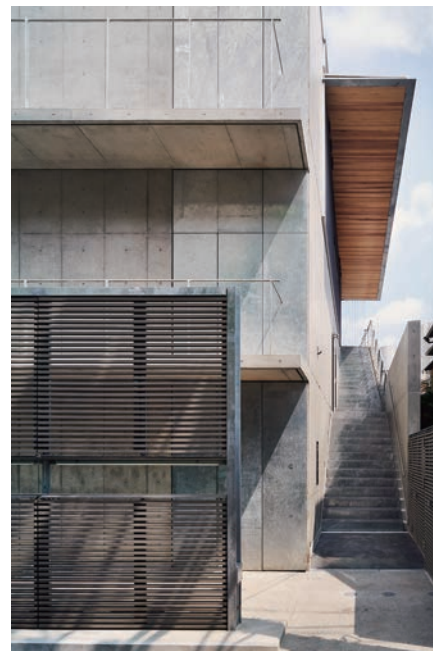
住居系の地域であるために、建蔽率、容積率とも低く抑えられており、事業用の建物として最大の効率を求められる一方、容積外の余剰の空間が多く生じる。軒下のパブリックな散策路やバリアフリー動線、ゆったりとした外部階段、渋谷の高層ビル群を臨むおおきなテラスなど、この余剰を豊かな外部空間として建物を取り巻くように計画した。

軒裏の杉板張り、通りに面する大きなサインボードや隣地境界塀、手すりなどを木質系のルーバーとして仕上げを統一し、歩行者からの視線に配慮した。テナントビルであるため内部空間については自由度を上げることと、柱の径や耐力壁の配置など、随所を注意深く検討して使いやすい寸法・配置に配慮している。

（工藤徹氏 談）



1階店舗スケルトン。耐力壁、柱の径、梁の配置で壁式構造でありながら開放的な内部空間



3階への外階段と杉板張りの軒裏



建物全景（ドローン撮影）

構造：RC造
規模：地上3階
用途：店舗・事務所・住宅
設計・監理：北山恒・工藤徹
／architectureWORKSHOP
構造設計：構造計画プラス・ワン
設備設計：ピロティ
施工担当：郷・小林
竣工：2020年8月
撮影：阿野太一

青山MYビル



国道 246 号線側の正面外観。バルコニーで所有分の顔に変化を付ける

2つの区画を統一して可能性を広げたテナントビル

国道246号線沿い、外苑前交差点近くにテナントビルを建てる計画である。敷地はM様、Y様という二人の建て主が持つ土地。前面道路に接するM様の持ち分とその奥の二項道路に接するY様の持つ土地の比率は約1:2である。そのままそれぞれが建物を建替えるとなると、Mさんは塔状建物を避けるために6階に、Yさんは二項道路のためせいぜい2階建てしか建てられない。そこで企画会社が2つの土地を一つの敷地にまとめるプランを提案した。国道246号線を前面道路として容積率も、より大きくなり、結果的に大きな9階建てが可能となる計画がスタートした。

1-2階は物販店舗、3-8階は事務所、9階は飲食店舗とし、フロア別に所有権を設けた。1-5階はM様所有、6-9階はY様、そして屋上には広告塔を設け、こちらはM様が所有することになった。総合的な判断による。

基本的にオフィスビルは基準階を設けて内部は各階同じ仕様にするが、今回ファサードで、建て主二人の持ち分をイメージに表し、3層で区分けすることにした。すなわち1-2階は天井高も高くして歩行者をいざなうRの曲面を設え、3-5階はオープンに、6-8階は閉じた形にし、レストランとなる9階はまたオープンな形にして所有分で6階を境にバルコニーの顔に変化を付けた。イタリア・ルネッサンス期のパラッツォでドーリス、イオニア、コリントといった柱の様式で建物のファサードを分割したように表情を作る。道行く人には1-2階しか見えないが、遠目には建物全体の構成を感じてもらえる。構造的には建物の高さとの比率が4を超える塔状建物であるが、それも2つの敷地を1つにして敷地が大きくなったことにより可能となった。

お二人にとってのデメリットが解消され、後はこの「コロナ禍」が一日も早く収まり、街の賑わいが戻るのを待つばかりである。

(溝口健二氏 談)



1階のコーナーはRで表情を柔らかく

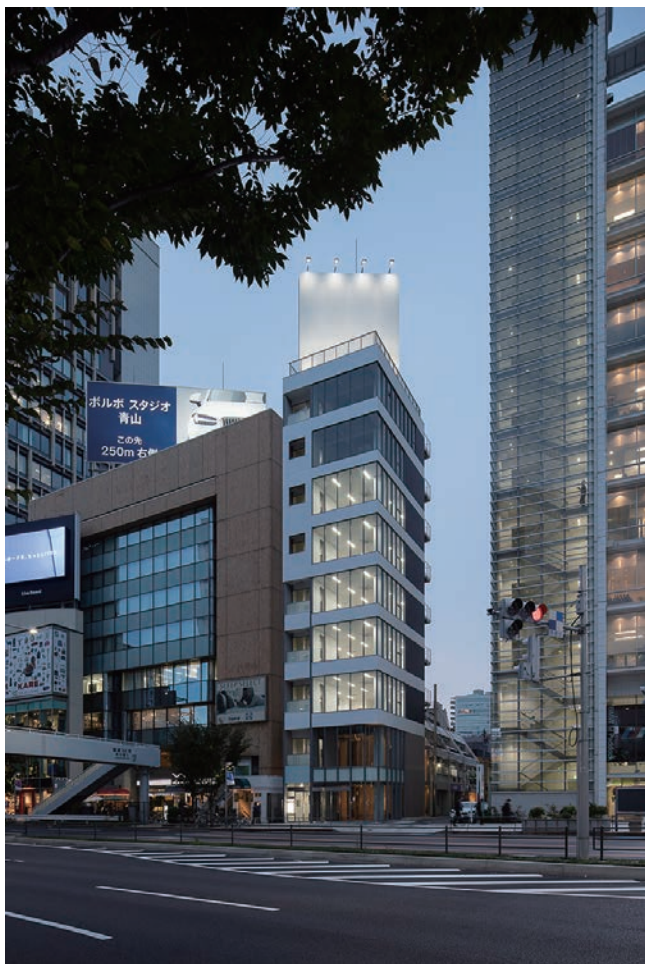


前面道路の国道 246 号線。渋谷方面を臨む



9階、飲食店舗、スケルトン

構造：S造
規模：地上9階
用途：店舗・事務所
企画：朝日プランニング
設計・監理：溝口健二／
建築設計計画
施工担当：池上・石井（
祥）・上田
竣工：2020年11月
撮影：上田宏



夕景。片側3車線の国道 246 号線では屋上の広告塔の視認性も高い

「2020 年度 法政大学建築学科卒業設計有志展」に協賛 2021年2月17日(水)・18日(木) 於: アーツ千代田 3331

今年も「法政大学建築学科卒業設計有志展」に協賛させていただきました。学生さん主体の有志展という特性を活かし、学外から著名建築家の先生をお招きして意欲あふれる展示が繰り広げられました。会場の、「アーツ千代田 3331」は、旧練成中学校に作られた複合施設です。カフェや校庭に開かれたデッキなど、居心地のいいコミュニティスペースが設けられています。4回目となる今年はコロナ禍の影響もありますが「オフライン」で開催することに価値が生まれるとの考えから、昨年以上に感染拡大防止について、細かい気配りをされていました。初日の17日、各先生による審査会風景をのぞかせていただきました。

出展は20作品、6人の先生が個別に巡回、(発表3分、講評3分)休憩をはさみながら、全ての学生に審査を行い、その後上位10名ほどに絞って全体講評会で討議、各賞が決定されました。

優秀賞

- ◆宮澤哲平 「Urban Village Building“S” ~働き開きによる新しい共同体の構想~」
- ◆瀬谷祐人 「赫 文化的民家群風景の再編」
- ◆石井冨 「まちを継ぐ~郊外住宅を境界から再考する~」
- ◆長岡杏佳 「儂きものからの再編~二畳半の空間のありかた」

各先生の個人賞

- ◆山道拓人賞 廣瀬萌音
- ◆中川エリカ賞 田伏莉子
- ◆谷尻誠賞 葛城まおり
- ◆高橋一平賞 関根康成
- ◆手塚貴晴賞 高木夏奈子
- ◆内藤廣賞 田中麗子

※写真撮影のときのみ、マスクを外していただきました。会場では入場人数制限、換気、非接触型体温計測定、消毒液設置、マスク着用など、徹底した感染症対策をとられていました。



山道拓人氏/ツバメアーキテクト



中川エリカ氏/中川エリカ建築設計事務所



谷尻誠氏/SUPPOSE DESIGN OFFICE



優秀賞: 宮澤哲平さん



高橋一平氏/高橋一平建築事務所



手塚貴晴氏/手塚建築研究所



内藤廣氏/内藤廣建築設計事務所



優秀賞: 瀬谷祐人さん



優秀賞: 石井冨さん



右から内藤廣氏、手塚貴晴氏、山道拓人氏、谷尻誠氏、高橋一平氏、中川エリカ氏。「大変革の時代が訪れている」「もっとびっくりさせてくれ」「街のサンプリングだけでなく時間の設計も」「今後も反対意見にどう向き合うか考え続けてほしい」「精度の高い環境リサーチに対し建物にもっと論理を」「今、理解できないことも心に留めておけばいつわかる」という先生方の講評が心に残りました。



講評を終えて集合写真



優秀賞: 長岡杏佳さん

「山本卓郎氏が『渡辺篤史のオンライン探訪』に出演」 2月27日

昨年竣工した「Y邸~空のある音楽ホール」の設計者、山本卓郎氏が2月27日(土) YouTube 配信の番組に出演されました。数多くの建築家・住宅を見てきた渡辺篤史さんの進行、ピアノ演奏も楽しめました。1月25日には、ラジオ「ASJ Presents 建築家のアスリートたち」第69回にも出演されています。そちらは下記から配信中です。
https://note.com/asj_note2020

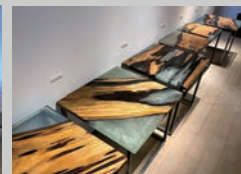


「エトルデザインの高山まさき氏が『木のしつらゑ』展を開催」 2月9日~14日 於: 銀座 森岡書店、万画廊

建築家の高山まさき氏の、アーティストとしての展覧会です。屋久杉や神代杉のテーブル、崩れ落ちそうな黒柿の花入れなど木の魅力を活かした美しい作品が、1本の木の唯一無二の魅力を伝えていました。



神代杉の家具



屋久杉のテーブル



黒柿の作品と高山まさき氏

編集後記

・医療関係者へのワクチン接種が始まり、2月28日首都圏を除く6府県が緊急事態措置解除となりました。オリンピック・パラリンピックの開催の目はまだ立っていません。新しい時代のあり方を皆で模索していかなければと感じます。

(株)辰 通信 Vol.252 発行日 2021年3月10日
編集人: 松村典子 発行人: 若本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: <http://www.esna.co.jp>



「SHIN CLUB」はWEB上でご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから →

